

くにたち しらべ



NO. 14

発行日 2012 年 9 月 10 日
編集＝くにたち図書館地域資料ボランティア
発行＝くにたち中央図書館

テーマ

『くにたちの地名』シリーズ 4 検地帳・他資料に記載されている地名

1. はじめに

国立市富士見台2-34、これはくにたち中央図書館の地番です。このように土地に番号、いわゆる地番がつけられるようになったのは明治以降のことです。明治より前、江戸時代の土地は住んでいる人個人の財産（私有財産）ではなく、その土地の藩が権利を持っていました。税はお金で納めず農民が土地を借りて作った米などの農作物を税金として（物納）藩に収めていました。これがいわゆる税金です。

土地に番号をつけたのは、明治新政府が行った「土地制度・租税制度」の改革のためで、これを地租改正といいます。土地ごとに地番をふり、一村限図（地引絵図）、地引帳を作成し、土地の所有者を明確にして地券を発行しました。それに基づいて地租（土地にかけられた税金）を確定するために行われたものです。税金は物納でなくお金で納めるようになりました。

地名は、村が大字となり、江戸時代の検地により作られた検地帳に載っている名が小字として多く使われました。

くにたちでは、谷保、青柳、石田が明治以降に大字となりました。

本編では、江戸時代の検地帳などに記されている字名を列記することで、現在残っている地名、また消えてしまった地名を知る手掛かりとしたものです。

現在でも公共施設や公園などには、その地域の由来を物語る名前が付けられているものがたくさんあります。

2. 江戸時代の検地帳ほかに記載されている地名

2-1 延宝検地^{#27}の字^{#14}の分布

国立市で残っている最も古い検地台帳は江戸時代の延宝年間（1673～81）年におけるものです。谷保村検地台帳^{#25}に記載された本田^{ほんでん}^{#28}畑と新田畑^{しんでん}から、村の展開をみてみます。（*2 中巻P287, 650, 651）

延宝年間の本田畑は、大きく三つの部分からなっています。一つは井口・下下（しもの下）・出井崎^{でいさき}などの、天満宮の側を走るハケの下に、多摩川との間に展開していた水田、二つは甲州街道の両側に並んで延びている屋敷地^{#30}、三つはハケの上に、一本松・鶉久保（うずら窪）・峰上（みね上）などの地域に展開している畑です。一方、この時期から、激しい勢いで、新しい耕地の開発が進められていました。（*2 中巻・P287）

1) 本田畑(*2 中巻・P650)

延宝検地による字と耕地—本田畑 (*2 中巻P 285)

(*は新田有り、単位：畝（30歩）、歩数は切り捨て

字	本田畑		南養寺・天神		字	本田畑		南養寺・天神		字	本田畑		南養寺・天神	
	田	畑	田	畑		田	畑	田	畑		田	畑	田	畑
青柳屋敷添		51			清水田	85				東台		83		
*荒田	142	1	50		しもの下	464	105			ふき上		102		
井口屋敷添		4			しゃくじ		90			*堀込		382		
井口	425	8			神明山		63			*本宿嶋	216		20	9
石田海道		49			すなはき	233				まちのきわ	16			
耆本松		228			すなた	49				*松原	308	3		
耆丁田	25				すわ免	171	0			*まめ田		0		
いなり窪		181			関瀬	148	29			みそかいと		353		
うずら窪		206			第六天林		16			*御岳前	265	7	42	
かにあい	109	23		14	滝乃下	303	25	38		見取嶋	226	291		
上乃下	24	5			滝乃上				25	*見取場			12	9
上水窪		317			谷淵		68			南屋敷添		60		
かも戸	30				てい崎	477				南屋敷裏		136		
かりや上				10	てい橋	153	41			みね下		82		
下さく連			30		寺後				58	*みね上		851		58
下のはけ		115			とうか森		138			宮の上		76		78
下道		142			道きやう塚		400		117	*向新田	226			
下水窪		309			中道		216			*向場			14	0
*さく連	216	0			中台	504	76			*弥五郎湯	368	6		
笹山下	15	230			中さく連	407				屋敷添		385		
笹山				20	はけ通り		207			屋敷裏		19		
*山王塚		77			早道場		221			屋敷の内		677		
四軒在家		612			原				9	*四ッ谷海道		238		
柴中		280			東原				50	*よみとり	26			

井口・しもの下・デイ崎（てい崎、出井崎）・松原・御岳前・弥五郎嶋など、下のハケの下にひろがる、いわゆる谷保田圃に本田が分布しています。それに対して本畑は、イナリ窪・ウズラ窪・水窪・四軒在家・ハケ台・トウカ森・ミソカイトなど青柳段丘を主として分布し、さらに一部は、ミネ上・山王塚のようにさらに上の立川段丘上にも広がりつつあったのです。

2) 新田畑 (*は本田^{#28}あり) (*2 中巻・P651)

*荒田、石田海道下、石田海道合、江戸海道、大はけ下、今うろ、国分寺海道、ごた窪、*さく連、*山王塚、篠崎、柴中まち北、柴崎、立川海道、立川道上、立川堰、田無海道、田村海道、田村海道下、中瀬、拝島海道、拝島海道北、はけ下、二ツ屋嶋、*堀込、*本宿嶋、*松原、まめ田、*御岳前、*見取場、*みね上、みの窪、みの窪台、宮の上海道、*向新田、*向嶋、田無海道、田無海道北、*弥五郎嶋、横海道、*四ッ谷海道、*よみと

り

新田畑は、荒田・松原・御岳前などでの、ハケ下での本田畑に沿った添地^{#24}の新開発も見られますが、新田畑の中心は、甲州街道より北の地域、江戸時代以前は、藪や雑木林・松林・^{あし}芦や^{かや}萱の密生した原野であったと思われます。拝島海道北・大ハケ下・山王塚・ミネ上などの立川段丘上の地域を畑に展開したことは明らかです。

2-2 元禄検地帳にでてくる新田畑の字

元禄2（1689）年の新田畑で1筆4反以上で名請^{なうけ}^{#27-1}された田畑の字を記します。

字名	地籍（畝）	字名	地籍（畝）	字名	地籍（畝）	字名	地籍（畝）
ごた窪	411	みの窪	944	大はげ下	1333	地蔵海道西	112
地蔵海道東	970	田無海道南	246	田無海道北	1397	拝島海道北	2361

これらの耕地はすべて下々畑（検地^{#27}による評価最低）です。立川段丘上の未開地が、大変な勢いで畑地化したことが読み取れます。大はげ下のはげは、国分寺崖線をさすものと見られます。（*2 中巻P653）

2-3 『谷保案内』^{#15-1}に記載されている地名（*2 中巻, P756）

谷保案内は、遠藤由晴（1759～1840）が著した。上下2巻からなり、江戸時代の谷保村の様子を七五調で綴った江戸時代末期に、谷保の寺子屋でもっとも重用された教科書です。

次の地名が記載されています。

本宿原、一本松、蟹谷、^{かまど}竈が淵、滝の下、中台新田、天神嶋、下も田、五反田、一丁田、河窪、松原、こめ池、出井崎、井口、御岳前、駒ヶ淵、向島、豆田、^{よしま}葭山、三家島、^{せきうら}関淵、弥五郎島、見取蛭田、^{ひる}諏訪面、^ま真間下、荒田、稲久保、日経塚、早道場、^{よこみち}横海道、五太窪、美濃窪、^{はげした}岨下、拝島道、立川道、堀止、峯上、仮屋上、山王塚、^{うづら}鶺久保、水久保、峯下、溝ヶ谷、地蔵街道、清水田、瀧の院、天神坂、仮屋坂、八幡宮、石塚や、千丑、吹上、黒木坂、^{しやくじ}社后祠、栗原郷、^{はげ}岨、中道、中平、芝中、笹山、諏訪の淵、三家、久保、橋場、矢川、四軒在家、青柳、雨成

3. 皇国地誌に記載されている、溝渠^{#29}、溜池、地名など

皇国地誌は、明治初期の未完に終わった官撰地誌です。刊行はされませんでしたでしたが、残存する原稿や控えは「皇国地誌残稿」「郡村誌」（ぐんそんし）と呼ばれ、貴重な史料となっています。

谷保村誌（南養寺所蔵）と青柳村誌（沢井英夫家文書）の控えから、地名に関するものの一部を拾いだしてみました。字番地は現在とおなじです。

1) 谷保村誌に記載されている地名など（*2, 中巻, P803）

溝渠 セケ村用水、立川渠、谷保用水、本宿用水、谷川、根川、蛭田悪水渠、

橋 谷川橋、板橋二ヶ所、用水橋、上新田橋、青柳橋、六右衛門橋、中新田橋、駒ヶ淵橋、下新田橋、四ッ谷橋

溜池 諏訪ノ淵 場所は字栗原6206番地

道路 甲州街道 青柳村より本村字上峰下と字栗原の間にて、村の中央を通り、字栗原仮屋上に来て、天神坂を経て、東南に転じ、字一本松と東ノ原の間を通過して四ッ谷村飛地につながる。

揭示場 本村の甲州街道ノ側、字栗原5904番地にありました。

社 天満宮 字梅林 5209番地

白山社 字一本松4130番地

神明社 字栗原 6015番地

稲荷社 字西ノ原8349番地

石神社 字栗原 5931番地

寺 南養寺 字栗原 6218番地

永福寺 字中峰下6877番地

庵 瀧乃院 字瀧ノ院5227番地

2) 青柳村誌に記載されている地名など (*2, 中巻, P210、沢井英夫家文書)

飛地 谷保村、本宿村、柴崎村南多摩郡石田村飛地、ほか多数記述があります。

渠 本宿村用水、青柳渠

道路 甲州街道 柴崎村より字甲州道中南と字甲州道中北に間を通り、谷保村へ

揭示場 本村の中央、字甲州道中南244番地にあり

社 稲荷社 甲州道中南236番地

堂 楊柳観音堂 甲州道中南244番地

4. わらべ唄でうたわれている地名

谷保のこもりうた

よい子や よい子や よくききな

よい子の生まれた その里は

北多摩ごおりの 谷保のむら

西も東も 桑のその

南を流るる多摩川や

北を走れる甲武線

ゆききの人も にぎやかな

甲州街道 中にとり

内には 青柳 四軒在家

はしばに 久保に 中平

石神に 千丑に 坂下よ

坂をのぼれば 下谷保よ

南にまわれば かわらがた

はげに 城山 栗原よ

よい子だ よい子だ

ねんねしな

この子守唄は、明治30年(1896)頃、中村登之助先生が谷保尋常高等小学校の子供たちに、谷保の地理を教えるために作詞されたもので、養蚕を主とした谷保の農村風景と、甲州街道のにぎわいをうたいこみ、江戸子守歌の調べで歌われました。(*23・P55)

5. 建造物、踏切などに残っている古い地名

1) 集会場 (<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/koen/003792.html> 参照)

谷保東(下ノ下135-1)、坂下(天神下74902)、千丑(下峰下7190-4)、石神(下峰下7103-2)、矢川(富士見台3-32-4)

2) 公会堂 (<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/koen/003792.html> 参照)

久保（栗原 6256）、一本松（一本松 4015）、四軒在家（上峰下 6772）

3) 踏切

下谷保、下谷保 1 号、天神前、滝の院 坂下第一、第二、
中平一号、二号

久保一号、久保二号、矢川、矢川二号、矢川第三、青柳

4) 公園 (<http://koueninfo3.fc2web.com/koueninfo3-shichouson-all-name/kunitachi-shi.html>参照)

城山公園、寺乃下親水公園、矢川緑地保全地域、ママ下湧水公園

四軒在家公園、谷保第一～六公園、立東遊園（北 3 丁目）、

石田第一遊園（富士見台 4 丁目）、石田遊園（青柳 1 丁目）

西の原遊園（富士見台 4 丁目）

矢川上公園、矢川遊園（青柳 1 丁目）、矢川いこいの広場（青柳 1 丁目）、

東之原遊園（谷保 4323）、一本松遊園（谷保 4149）、

天神下遊園（谷保 598）、

下新田遊園（谷保 3999）、坂下遊園（谷保 1569）、栗原第二遊園（谷保 5849）、栗原第一遊園（谷保 5852）

滝之院遊園（谷保 5230）、中峰下遊園（谷保 7063）、下峰下第二遊園（谷保 7117）、石神遊園（谷保 7105）、

上の下遊園（泉 4 丁目）、

上新田遊園（谷保 3085）、上新田第二遊園（谷保 2985）、上新田第三遊園（谷保 3013）

青柳台遊園（青柳 263）、青柳北緑地（青柳 1 丁目）、緑川東公園（青柳 1 丁目）、緑川西公園（青柳 3 丁目）、青柳台北第二遊園（青柳 1 丁目）、

青柳南第一遊園（青柳 1 丁目）、青柳北第二遊園（青柳 1 丁目）、

青柳遊園（青柳 1 丁目）、青柳北遊園（青柳 1 丁目）、

上峰下第二遊園（竹の子遊園）（谷保）、上峰下第一遊園（谷保 6738）、

5) 郵便局

天神下郵便局（谷保栗原 5859）、谷保郵便局（谷保栗原 6249）

6) その他 (<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/koen/003792.html> 参照)

くにたち立東福祉館、青柳福祉センター

中平地域防災センター、下谷保地域防災センター

6. 語句の説明・解説（*数字は、引用文献を示す）

#14 字（あざ）

土地の小名の名称。田畑・山林・野地などにつけられた。口頭では名所・小名・下げ名ともいわれたが、帳面・証文には字だけが使用された。（*13）

#23 新田【しんでん】

江戸時代にあらたに開墾された田畑のこと。（*11）

享保 11（1726）年に新田検地条目が発令されて開発が全国化した。

#24 添地 【そえち】 ある地面に添え加える地面。江戸において役所に付属としている屋敷地をいう。添地から生じた地代金は当該役所の経費の一部に与えられた。某所付屋敷というのはこの類である。
(*13)

#24-1 持添新田 【もちぞえしんでん】 新開地で石高はあるが、村居の農民が不在の土地。(*13)

#25 検地帳 【けんちちょう】 水帳とも呼ばれ、検地の結果を一筆ごとに記載し、これを一村ごとに合計して村高を明らかにした台帳である。(*29)

#26 名寄帳 【なよせちょう】 耕地所有者別に、耕地の区別、石高を一筆ごとに書き、集計したもので、年貢を個々の農民に割り当てる基準として重要な意味を持っていた。(*29)、村役人が検地帳に基づいて作成した。

#27 検地 【けんち】 領主が所領把握のために行った田畑や屋敷地の丈量。これにより算出された石高などが租税・年貢徴収の基準となった。室町後期から用語例が見え、#太閤検地以後、公用語として定着。豊臣秀吉が行った太閤検地は、戦国大名検地を前提にしながらも、300 歩=1 反、1 間=6 尺 3 寸の統一基準で実施された。一地一作人などの原則をもって全国的に行われたこの検地により、近世的支配体制の基礎が築かれた。江戸時代に入ってから、幕府領を対象とした寛文・延宝検地をはじめ、新田開発に対する新田検地など、各種の検地が実施されている。(*12) ついで、それぞれの田でつくられている米の量を調べて、田を上中下などに等級分けしました。米を作っていない畑などの耕地も、その生産力に応じて上中下などの等級分けを行い、上畑は下田と同じ生産力をもつものというように査定して、畑の生産力も米の量で表記することにし、屋敷もおおよそ上畑と同じ生産力をもつものと査定されました。(*12)

#27-1 名請 【なうけ】 近世、検地にあたり農民が自分の所持耕地を領主に認定させ、検地帳に名前を登録してその耕地に対する年貢を負担することや土地を耕作する権利・義務を負うこと。(*13)

#28 本田 【ほんでん】 中世の荘園において検注によって確定された田地。新開田に対していう。近世では初期の検地に登録された田地を称した。(*12)

江戸時代、元禄年間以前の検地によって村高に組み入れられた田畑のこと。享保 11(1726)年の新検地条目によって、元禄以前に検地した耕地を本田畑、享保年間までの新開地を古新田、享保以降の新開地を新田と区別した。(*13)

#29 溝渠 【こうきょ】 給水又は排水のため、水を通ずるように掘ったもの総称。みぞ。

#30 屋敷地 【やしきち】

単に屋敷ともいう。武士の宅地は抱え屋敷、町人の宅地は町屋敷と呼ばれる。江戸時代宅地は私有を許されていて、一般的に家屋と宅地は同一の所収者に属し、家屋敷として同時処分された。(*13)

7. 出典・参考資料

- ([] 内の図書記号は 国立市中央図書館、() は中央公民館)
- 1) くにたちの歴史 編纂 国立市 平成 7(1995)年 [1 0 B 1]
 - 2) 国立市史 上中下 編纂 国立市 昭和 63(1988)年~1990 年 [1 0 B 1]
 - 12) 岩波日本史辞典 岩波書店 1999 年 [R 2 1 0]
 - 13) 日本史用語大辞典、日本史用語辞典 柏書房 1979 年 [R 2 1 0]
 - 20-1) 国立の生活誌 [1 0 D 1]
一 古老の語る谷保の暮らし 1982 年 第 1 4 集
 - 23) 我がふるさと国立 郷土史考随想 沢井義男 けやき出版 平成 3(1991)年 [Y 3]
 - 29) 立川の地名一立川編一 保坂芳春 立川市教育委員会 昭和 6 3 (1988)年 [2 8 C 3]

30) 東京都市町村部「公園」施設・環境等総合調査

各市町村部「公園名」全データ 国立市編国立市の公園の一覧

<http://koueninfo3.fc2web.com/koueninfo3-shichouson-all-name/kunitachi-shi.html>

31) 国立市の地域集会所、地域防災センター、地域福祉館の一覧

<http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/koen/003792.html>